

警防活動時等における安全管理マニュアル

【改訂版】

＜一部抜粋＞

平成 2 3 年 3 月

消 防 庁

I 警防活動時等における安全管理マニュアル (総論)

§ 1 基本事項

1 安全管理の基本

行 動 内 容	ねらい
1 安全管理は、自己管理が基本であることをよく認識し、自らの安全は自らが確保する認識を持って、いかなる場合も安全行動に徹しなければならない。	◎安全管理意識の徹底
2 安全確保の第一歩は服装に始まる。常に完全な着装を心がける。	
3 指揮監督的立場にある職員は、常に隊員の行動の安全確保に努めなければならない。	◎指揮者の明確な指示、命令の徹底
4 隊員は連絡を密にし、相互の安全の確保に努めなければならない。	◎相互の安全確認

2 事前対策

行 動 内 容	ねらい
1 災害現場活動を的確に遂行するため、日頃から厳正な規律及び健康の保持、気力・体力の錬成に努める。	◎厳正な規律及び健康の保持と気力・体力の錬成
2 普段から食事、睡眠等に留意して体調管理に努めるとともに、日常的に血圧測定等を実施するなど、職員本人及び監督者は体調の把握に努める。	
3 装備資機材を安全に使用するため、使用方法に習熟しておくとともに常に点検を励行する。	◎装備資機材の使用方法的習熟と事前点検の励行
4 災害現場での安全行動を確保するため、警防調査を積極的に行い、警防活動の障害等の実態を把握し、その周知徹底を図る。	◎積極的な警防調査の実施
5 警防活動を有効かつ安全に行うため、常にチームワークの保持に努める。	◎チームワークの保持
6 警防活動における危険を回避するため、訓練等を通して日頃から安全教育を行う。	◎安全教育の徹底

3 事後対策

行 動 内 容	ねらい
1 使用後の装備資機材は、再出動に備え必ず事後点検を励行する。	◎事後点検の励行
2 警防活動終了後は、必ず当該活動について記録するとともに、安全管理面から検討を行い、以後の災害現場活動に活用する。	◎災害現場活動後の安全管理についての検討
3 事故事例はかけがえのない教訓である。内容を詳細に検証して対応策を見出し、行動の指針として活かす。	◎事故事例、経験の活用

4 行動原則

行 動 内 容		ねらい
指揮者	1 指揮者は、旺盛な責任感と確固たる信念を持って、自隊を統率する。	◎指揮者の心構え
	2 指揮者は、常に隊員の技量・体力を把握しておくとともに、隊員の健康状態についても十分把握する。	◎隊員の状況の確実な把握
	3 指揮者は、積極的に上級指揮者の指揮下に入り、自隊の行動指示を受けるとともに、状況を的確に把握して、自隊の行動の安全確保措置を速やかに決定し、その内容を明確に毅然として隊員に指示する。	◎状況の的確な把握と迅速な安全確保措置
	4 指揮者は、他隊または全体の行動を十分に把握し、一体となった部隊活動を行うよう努める。	◎指揮統制の徹底
	5 指揮者は、状況が急変した場合には、状況に応じて判断を下し、速やかに隊員の安全確保のため、必要な指示を与える。	◎隊員の安全確保のための迅速な指示
隊員	1 隊員は、旺盛な士気により、常に任務を完遂する気概を保持する。	◎隊員の心構え
	2 隊員は、指揮者の指示・命令を遵守する。	◎指揮者の命令の遵守
	3 隊員は、常に災害現場における自らの安全の確保に努めるとともに、相互の連絡を密にし、チームワークの保持に努める。	◎安全の確保とチームワークの保持
	4 隊員は、災害現場の状況が急変した場合等、指揮者の状況判断に必要な情報を直ちに報告する。	◎状況急変時の速やかな報告
	5 隊員は、自己の行動内容及びその結果について随時指揮者に報告する。	

5 熱中症対策

行 動 内 容	ねらい
1 平素からこまめな水分摂取に配慮し、急な災害出場にも対応できる準備をする。	◎水分や塩分補給による熱中症対策
2 災害現場においてもこまめな水分摂取ができるように、必要に応じて補給隊を配備するなど体制の整備を図る。	
3 活動が長期に渡る場合は、塩分の摂取にも配慮する。	
4 夏季や長時間の活動時には、体調の異変を感じる前に、防火衣の中にアイスパック等を装着したり、活動途中に水を流し込むなど身体の冷却を図る。	◎身体を冷却することによる熱中症対策
5 必要に応じて休息をとるなどして、安全な場所で防火衣の前面開放や防火帽の離脱を行い、防火衣内等に蓄積された熱を外気に放出させ、身体を冷却する。	◎防火衣等に蓄積された熱の放出による熱中症対策